

この事業は、まちづくりパスポート
事業の対象活動です。 25P



～戦争遺跡巡りの主な場所～

① 福山護国神社跡（福山市草戸町）



神橋



戦時体制下の生活（学徒動員）

造成に当たる中学生

昭和15年以降多くの奉仕者によって本殿建設が進められました。市内の中学生も学徒動員で多くの生徒が造成にかり出されました。ところが、昭和20年の福山空襲で完成間近の本殿は焼失しました。現在残っているのは、参道にかかっていた「神橋」です。よく見ると中央にへこんだところがありますが、これが空襲の跡だと言われています。

② 陸軍病院跡（福山市花園町）



跡地を印す石碑(農協会館内)

陸軍病院の門(現在福山医療センター)

陸軍歩兵四十一聯隊の衛戍病院として創設され多くの戦傷病者の治療にあたった。のちに福山陸軍病院となる。

福山空襲で本館を残し、病舎は全焼した。

③ 陸軍歩兵第四十一聯隊跡（福山市緑町）



昭和10年頃の営門

四十一聯隊碑

将校集会所通用門

聯隊創設時は第五師団（広島）、1908年（明治41年）に福山転営時は、第17師団（岡山）に属した。

第17師団→第65旅団→歩兵四十一聯隊（歩兵百四十一聯隊）

④ 噴水池モニュメント（福山市霞町）



昭和13年福山遊園地として開園し遊園地のシンボルとしてアール・デコ様式の噴水池が完成しました。その中心に据えられていたのがこの石の玉です。昭和20年8月8日の福山空襲では多くの住民が熱と炎から逃げるため、噴水池に飛び込み多くの命を救ったと言われています。

⑤ 福山市戦災死没者慰霊の像（福山市霞町）



8月8日22時25分、91機のB-29が襲来し、約1時間にわたり、556トンの焼夷弾を投下した。市街焼失面積は、314ヘクタール（市街地の約80パーセント）に及び、355の方がなくなり、重軽傷者は864人にのぼり、福山市始まって以来の大惨事となった。

⑥ 福山聯隊区司令部・福山憲兵隊分隊跡（福山市昭和町）



憲兵隊門柱

憲兵隊前を中国戦線へ出征する兵士

福山聯隊区司令部は、聯隊区内における兵士の徴収、召集、在郷軍人の服役、在郷将校団、及び在郷軍人会に関する事務を司った。

○憲兵隊

（1881年（明治14年）に設置され、軍人の違法取り締まりや国内の治安維持を任務とする軍事警察であった。

⑦ 空襲の被害を受けた石仏・墓石

大念寺（寺町）

水野勝成の墓石（若松町）



⑧ 焼夷弾の傷跡 光善寺（東町）



焼けた跡

焼夷弾の貫通跡

福山空襲で、油脂焼夷弾で焼けた庇（写真左）やエレクトロン焼夷弾が突き抜けた跡（写真右）を、今なお残している。空襲がいかにひどかったかを現在に語りかけている。

⑨ 焼夷弾で破損した土橋（福山市吉津町）

福山空襲によって被害を受け、倒れた民家が石の欄干に直撃したため、炎と熱風により変形したまま保存されている。福山空襲の被害を知らせる教材となっている。なお、上にある火袋は、戦時中に供出され失われていたが、戦後になって復元されたものである。

